

平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	101人	算数	101人	理科	101人
------	----	------	----	------	----	------

第5学年	国語	93人	算数	93人	理科	93人
------	----	-----	----	-----	----	-----

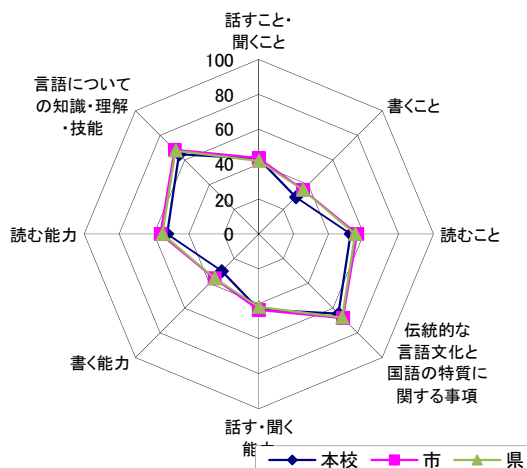
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	43.2	43.5	41.8
	書くこと	30.0	35.9	35.8
	読むこと	52.6	56.3	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	64.6	68.2	67.5
観点	話す・聞く能力	43.2	43.5	41.8
	書く能力	30.0	35.9	35.8
	読む能力	52.6	56.3	55.2
	言語についての知識・理解・技能	64.6	68.2	67.5



★指導の工夫と改善

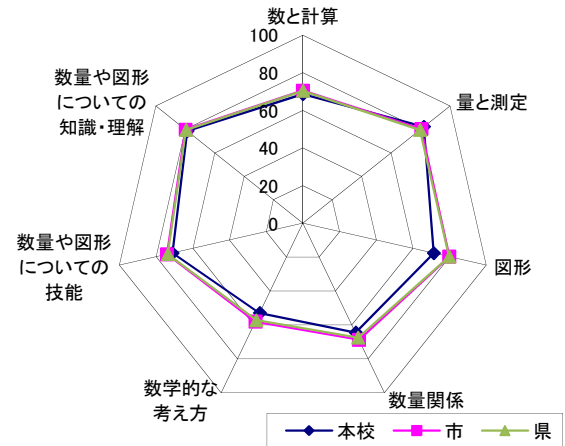
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●領域の正答率は43.2%で、県や市と比較して同程度である。 ○話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する問題の正答率は70.3%で、県と比較して7.6ポイント高くなっている。 ●進行に沿った話し合いをする問題では、正答率が7.9%と低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常の様々な場面で「話す・聞く」という活動の場を多く設定する。 ●話し合い活動では、今考えることは何かをしっかりとつかませた上で発言できるように指導する。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●領域の正答率は30.0%で、県や市と比較してやや低い。 ●招待状に入れる二つの内容を一文にまとめて記述する問題は24.8%と正答率が低く、無回答も28.7%と県や市と比較して6~9ポイント多くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語の時間だけでなく、行事や様々な活動の振り返り、新聞づくりなど、短作文や感想文を書く機会をできるだけ多く設け、書くことに慣れさせる。 ●手紙の書き方について丁寧に指導した上で、繰り返し手本となる文を模写させる。また、身近な人に招待状や案内状、年賀状などを書く機会を設ける。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●領域の正答率は52.6%で、県や市と比較して同程度である。 ○文章と図を関連付けて読む問題の正答率は54.5%で、県と比較してやや高い。 ●目的に応じて文章を要約する問題の正答率は、5.0%と大変低くなっている。 ●登場人物同士の関係や物語上での役割を捉える問題の正答率は55.4%で、県と比べやや低くなっている。 ●叙述を基に、登場人物の性格などについて想像して読む問題の正答率は、62.4%で県や市と比べ10ポイント近く低く、無回答もかなり多くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の読書や学校図書館の利用を促し、本に親しむ機会を多くもたせるようにする。 ●説明文の読解については、段落ごとに大切な文や中心となる言葉を捉えられるよう丁寧に学習を進めていく。 ●物語文の読解については、登場人物の気持ちや情景などを叙述に即して丁寧に読み進めていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ●領域の正答率は64.6%で、県や市と比較して同程度である。 ○漢字を書く問題の正答率は、やや高い。 ●漢字を読む問題の正答率は、やや低い。 ●会話における「」の使い方(32.7%)や、簡単なローマ字による書き方の正答率(46.5%)は、県や市と比べて10ポイント以上低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音読を奨励するとともに、家庭にも協力を依頼し毎日続けられるようにする。 ●新出漢字だけでなく、前学年までの漢字やローマ字についても繰り返し練習に取り組ませる。 ●「」を使った作文の書き方について丁寧に指導し、手本となる文を模写させたり、繰り返し文を書く練習に取り組ませたりして定着を図る。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.6	70.5	70.3
	量と測定	82.2	80.4	79.6
	図形	71.3	79.8	79.7
	数量関係	64.5	68.7	67.5
観点	数学的な考え方	53.0	58.0	57.2
	数量や図形についての技能	71.1	74.1	73.7
	数量や図形についての知識・理解	78.6	79.9	79.5



★指導の工夫と改善

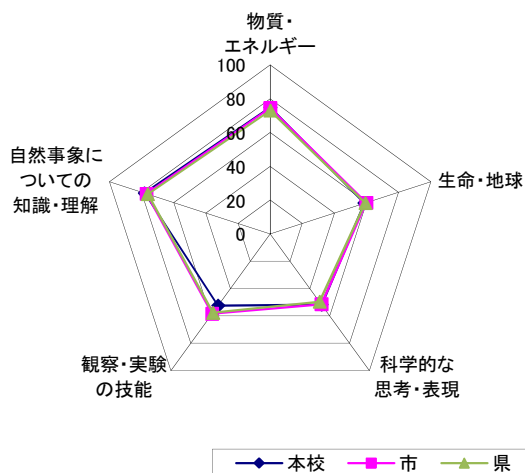
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は68.6%で、県や市と同程度である。 ○2位数÷1位数の除法の計算や、真分数+真分数の同分母の計算、小数の大小関係を不等号で表すことは、正答率が90%以上でよくできている。 ○整数を単位分数のいくつ分と表すことは正答率が92.1%で、県と比べても6.2ポイント高く、よく理解できている。 ●3位数×1位数や3位数×2位数の乗法の計算が、県や市と比べて10ポイント前後低く、十分定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四則計算に関しては、基礎的な計算能力がしっかりと定着するよう、教科書やドリルの問題を中心に繰り返し取り組ませ、力を伸ばしていく。 ・特に3位数の乗法については、再度一斉指導で復習し、計算の仕方を確認していく。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は82.2%で、県や市と同程度である。 ○時こくと時間の正答率は87.1%で、県や市と比べて5ポイント以上高くなっている。 ○重さの推測の正答率は86.1%で、県や市と比べて10ポイント以上も高く、大変よくできている。 ●はかりの重さを読み取る問題の正答率は70.3%と低く、県と比べても5.8ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に重さをはかるなど算数的活動を多く取り入れ、体験しながら量的な感覚を養い、はかりの読み方の知識・技能の定着を図っていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●領域の正答率は71.3%で、県や市と比べてやや低い。 ●円の直径や半径についての理解が不十分で、直径の正答率は74.3%、半径は57.4%と低く、県や市と比べても10ポイント前後低くなっている。 ●正三角形の作図の正答率は75.2%で、県や市と比べて5ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の基礎的な知識について、再度確認し、定着を図っていく。 ・図形の性質を利用した問題の復習を行うとともに、コンパスや三角定規を使った作図では、正確にできるよう個別指導を徹底していく。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は64.5%で、県や市と同程度である。 ○棒グラフの目盛りの読み方の正答率は91.1%と高く、よくできている。 ●等分除の問題の正答率は49.5%と低く、県や市と比べても5ポイント以上低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題をしっかりと読み、内容を正しく理解できるように、言葉や図で表現させる。また、解き方に関しても、自分なりの表現の仕方の説明したり、よりよい解決方法を話し合ったりすることで、数学的な考え方を養っていく。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	74.9	74.5	72.9
	生命・地球	58.7	59.8	59.2
観点	科学的な思考・表現	51.8	51.6	49.7
	観察・実験の技能	52.5	58.4	57.7
	自然事象についての知識・理解	78.2	77.0	76.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は74.9%で、県や市と同程度である。 ○磁石につけると磁石になる物があることがわかる問題の正答率が85.1%で、県と比べても10.5ポイント高く、よく理解できている。 ○電気の通り道では、電気を通す物と通さない物の理解ができており、正答率が84.2%で県や市と比べ10ポイント以上高く、大変よくできている。 ●電気を通すつなぎ方を答える問題では、4つの中からすべてに該当する答えを求める際、1つしか答えなかったことにより、正答率が45%程度と低く、県や市と比べてもかなり低い結果であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出題された問題の意図を理解しておらず、該当するすべての解答を答える問題では、2つ求めるところを1つしか答えていない児童が多くいた。問題を最後までしっかりと読み解き、該当する答えを導き出せる様に指導していく。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は58.7%で、県や市と同程度である。 ○昆虫の胸には、3対6本の足や、羽があることを理解しており、正答率が82.2%で、県や市と比べて同程度であった。 ●観察記録をもと昆虫を選択し、その理由を説明する正答率が34.7%と低く無回答の児童が多くいた。 ●虫眼鏡の正しい使いかたの正答率は34.7%で県や市よりも15ポイント以上低い結果であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記述式の問題になると、正答率が下がり、無回答の児童も多くなる傾向が見られる。今後も、文章で書かせる指導が必要と考えられる。 ・虫眼鏡の正しい使い方を答える問題では、正答率が低かったため、復習をしていく。 ・実験器具の名前や使い方をしっかりと覚えられるよう使用時には正式な名称で取り扱えるようにしていく。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○宿題や学習が自分のためになっていると感じている児童が多く見られる。

○授業で自分の考えを文章にまとめて書くことになれていると回答した児童の割合が市や県と比べ高い。継続して考えを書いて説明するという授業スタイルを進めてきた成果と思われる。

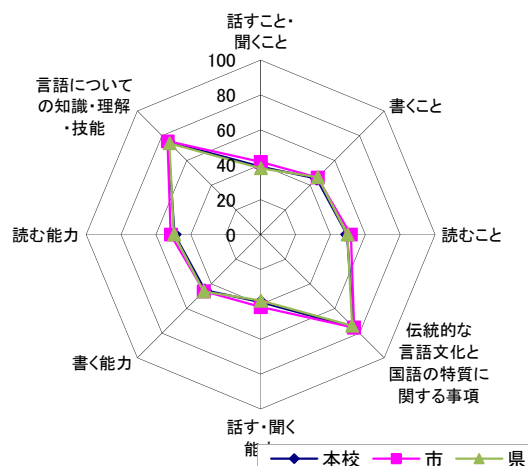
●宿題への意欲や難しい問題へのやる気、疑問に思うことや不思議に思うことを最後まで調べたいという意欲面がやや低く、特に学習に進んで取り組む意欲面では、個人差が大きい傾向が見られる。今後も、称賛しながら、興味をもって取り組めるような学習スタイルを進めていきたい。

●家庭学習において、予習や復習、テストの間違い直しや自主学習、辞書の使い方などで課題が見られる。今後も個別指導をしながら、家での学習スタイルを指導していきたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	38.8	41.6	37.9
	書くこと	45.3	46.1	46.3
	読むこと	49.5	51.6	49.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.2	75.6	74.0
観点	話す・聞く能力	38.8	41.6	37.9
	書く能力	45.3	46.1	46.3
	読む能力	49.5	51.6	49.7
	言語についての知識・理解・技能	75.2	75.6	74.0



★指導の工夫と改善

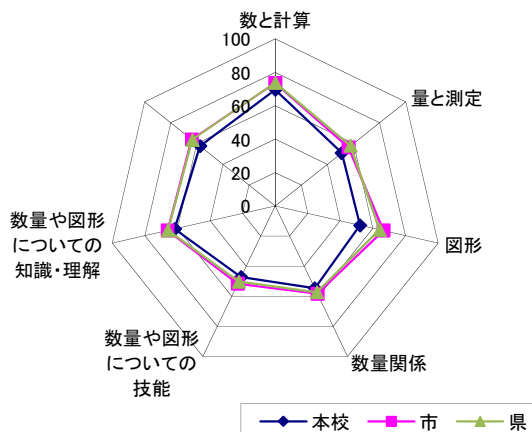
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は38.8%で、県や市と比較して同程度である。 ●話し方・聞き方の理解に関して、提案者の役割を理解し、話し合いに参加する問題の正答率が56.5%と低く、市と比べても8.6ポイント低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の様々な場面で「話す・聞く」という活動の場を多く設定する。その際、司会者・提案者・聞き手等の役割をしっかりと認識させながら話し合うようにする。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は45.3%で、県や市と比較して同程度である。 ●作文では、与えられた条件のもとに、文章を記述することができていない。無回答率も20.7%とかなり高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の様々な場面で、文章を書く活動を多く設定する。その際、日記や感想文だけでなく、意見文・説明文など様々な文章に触れさせることで、文章の違いを理解させる。また、新聞を活用していく機会も設けていきたい。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は49.5%で、県や市と比較して同程度である。内容別では、説明文の内容理解が50.4%、物語文の内容理解が48.6%の正答率である。 ●説明文の中心となる語を捉えて読む問題や物語文での叙述をもとに登場人物の気持ちを想像して読む問題の正答率は、ともに市と比べて5ポイント程度低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書を奨励し、様々なジャンルの本に親しむ機会を持たせる。 ・説明文の読解については、ワークシートを工夫したり、構成図を用いて読み取らせたり、繰り返し指導していく。 ・物語的文章では、情景や登場人物の気持ちなどを叙述に即して、ていねいに読み進めていくようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は75.2%で、県や市と比較して同程度である。 ●漢字の読み・書き、言葉の学習は、市や県と同程度であるが、漢字の書きでは、無回答率がやや多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字だけでなく、既習漢字についても繰り返し練習させる機会を設ける。 ・定期的に漢字テストを実施し、習熟を図る。 ・国語辞典や漢字辞典を身に置き、すぐに調べられるような環境を整える。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.6	73.6	73.7
	量と測定	50.9	56.2	57.7
	図形	52.2	66.5	64.2
	数量関係	54.6	58.4	57.5
観点	#REF!	47.2	51.7	50.3
	数量や図形についての技能	61.7	66.1	65.9
	数量や図形についての知識・理解	57.6	64.0	63.5



★指導の工夫と改善

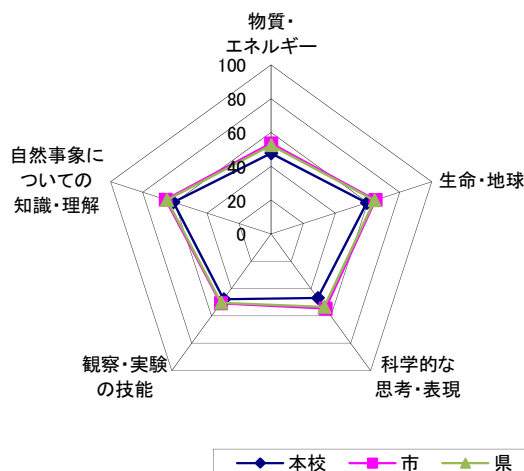
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●領域の正答率は69.6%で、県や市と比較して同程度である。 ○整数のかけ算、小数の引き算に関する問題は、正答率が高く、県と比べても5ポイント以上高い。 ●億や兆の位、小数を倍にした数を表す問題は、正答率で県と比べて5ポイント以上低くなっている。 ●数直線の目盛を読み取り分数で表す問題の正答率は44.6%で、市や県と比べて17ポイント程度とかなり低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●四則計算位については、計算ドリル、百ます計算などを活用し、速さや正確さを向上できるよう日頃から指導していく。 ●数字を漢字で表したり、漢数字を数字で表したりする練習を行う。簡単な問題から徐々に桁数を多くしていくなど段階を追って指導しながら、苦手意識を取り除いていけるようにする。 ●教科書の問題だけでなく、ドリルや巻末の発展的な問題などにも挑戦させ、計算力を高めていく。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ●領域の正答率は50.9%で、県や市の平均よりやや低い。 ●面積を違う単位で表したり、複合図形の面積を求める問題の正答率も、県よりやや低い。特に、身の回りの物の面積を推測したり、角の大きさを測ったりする問題の正答率は、県よりかなり低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●図形の面積の公式を繰り返し復習し、確実に覚えさせる。 ●量や長さ、大きさについては、測定する前に、概測させることで量感を高めさせる。また、実際に器具を使い測るなど、体験的な活動を多く積ませる。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●領域の正答率は52.2%で、県や市の平均よりかなり低い。 ●立体図形の面や辺の関係、平面図形と対角線の関係、立方体の展開図、ひし形の作図の問題に関する正答率は、県と比べてかなり低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●定規や分度器、コンパスなどの正しい使い方を身に付けるよう個別指導を行っていく。 ●立体図形の辺や面との関係を具体物を利用して実際に確認する活動を適宜繰り返す。 ●立体の見取り図や展開図を描かせたり、描いた展開図を組み立てさせたりするなど、作成したものを検証させる活動を取り入れる。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ●領域の正答率は54.6%で、県や市と比較して同程度である。 ○式を読み取り、問題場面と関連付けて考え方を説明する問題は、67.4%の正答率で、県と比べて10ポイント以上高かった。 ●二次元表や2つのグラフを比較し読み取ったことを説明する記述問題は、県よりかなり低い。 ●理由や説明を記述する問題に対する正答率が低く、記述式問題への無回答が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ●棒グラフや折れ線グラフなど、さまざまなグラフの特徴を理解させるとともに、2つのグラフを比べてその違いを説明できるように言語活動の充実を図っていく。また、社会や理科など他教科との関連も図りながら、グラフの読み取りの指導をしていく。 ●計算ができるだけでなく、数学的な考え方をを用いて、適切に問題を処理する力や筋道立てて式や言葉、図などを使いながら説明する力を高めていくようにする。 ●立式の仕方や考え方について、ノートにまとめる時間を適宜確保する。 ●文章問題で題意をつかめない児童には、何を問われていて、何が分かり何が分からないのかなど、線を引いたり、言葉や図で表現させたりする。 ●1つの解法だけでなく、より良い解決方法が話し合ったり、多面的な考え方を取りあげていく中で、数学的な考え方を養っていく。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	47.8	53.7	52.5
	生命・地球	59.5	64.9	64.3
観点	科学的な思考・表現	46.9	54.7	53.4
	観察・実験の技能	47.8	50.8	50.3
	自然事象についての知識・理解	60.9	65.7	64.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●領域の正答率は47.8%で、県や市の平均よりやや低い。内容別では空気と水の性質は69.0%、金属、水、空気と温度は43.5%、電気のはたらきが50.0%の正答率であった。 ●金属、水、空気と温度では、水が氷になるときの温度変化に関する問題で、正答率が37.0%と県や市よりも20ポイント程度低かった。 ●空気を温めた際のゼリーの動きとその理由を説明する問題や金属が冷やされたときの体積の変化についての問題では、県や市の平均を10ポイント程度下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●すべての学習内容において、実験がベースとなる問題が出題されたが、正答率が低かった。その要因として、得ている知識を活用することができていないことが考えられる。言葉の意味等は分かっているが、その知識を活用して問題に取り組むことができていない。実験をしていく過程で、得た知識と実験結果を関連付けながら考えさせていきたい。今後の指導として、授業の中で実際に実験に取り組んでいくときに、実感を伴わせながら実験を行うことができるように授業展開を工夫していきたい。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ●領域の正答率は59.5%で、県や市の平均よりやや低い。内容別では人の体のつくりと運動は、47.3%、季節と生物は65.2%、天気のように62.4%、月と星が58.2%であった。 ●天気の様子では、金魚鉢に入っていた水が減った理由を説明する問題で、正答率が54.3%と県や市よりも17ポイント程度低かった。 ●人の体のつくりと運動では、人の背中や手が丸く曲げられる理由を説明する問題の正答率が28.3%で、15ポイント程度県や市よりも低い結果となった。 ○方位磁針の正しい操作方法を問う問題の正答率では、県や市の平均を7ポイント程度上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ●記述式の問題についての正答率が低い。今後も、書く活動を重視し、さまざまな事象に対して「なぜ」起こるのかを捉えさせながら学習に取り組ませたり、自身の考えを書く時間を設けたりして、書くことに慣れさせていきたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○家庭での生活習慣の状況では、毎日朝食を食べている、自分は家族の大切な一員だと思うなど、落ち着いて生活している面が見られる。

○学習に普段から一生懸命取り組む児童が多く、ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがあるなど、課題に対して自分で解決しようとする意欲が高い。今後も引き続き意欲がもてるよう、指導の工夫をしていきたい。

●地域や社会で起こっている問題やできごとに対するの関心や話し合う活動への参加、学習の振り返りなどに課題が見られる。

●家庭学習においても、復習、自主学習、辞書を活用する力、決まった時刻に学習することに課題が見られ、今後も個別指導をしていく必要がある。